

友好都市とソバ栽培で交流

宮城県涌谷町と山形県大石田町は友好交流協定を2013年に締結している。文化、教育、産業、まちづくりなど幅広い分野における交流が行われ、相互の発展を目指し、大規模災害発生時には相互応援協力を行うこととしている。

2019年度から、涌谷町でも大石田町の名産品であるソバ栽培への取組みが始まった。発起人は、農業委員会会長をはじめとする町民有志。町内の田んぼの一角に、試験的に栽培を行っている。



2019年度の収穫の際には、大石田町の職員が涌谷町に駆けつけ、協働で収穫作業を行った。収穫できたソバの量はわずかであったが、栽培に関わった皆で試食し、収穫の喜びを分かち合うことができた。

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、協働作業は叶わなかったが、町民有志による栽培は続けられた。涌谷町農業委員会の畑岡会長は「ソバはあまり手間がかからず、比較的育てやすい作物である。気候の違う涌谷町でも、栽培手法が確立されれば、十分な収量が見込める。大石田町も涌谷町も農業が基幹産業である。農業を通じた交流を深めることによって、両町の絆が強くなって欲しい」と語る。